

非帰島島民のネットワーク

「在京三宅島会」が発足

電話帳作り・情報交換・交流会などを



今後の活動について語る佐藤会長



あすなる保育園の保育士さんによる踊り



和やかに懇談する島民とボランティア

昨年2月の全島避難指示解除後も、様々な事情によって帰島できずにいる島民同士のネットワーク組織をつくるため、在京・三宅島会が発足した。

京三宅島会が結成された。結成式は二部構成で行い、オープニングイベントとして支援ボランティアによる合唱や踊り「佐渡おけさ」が披露された。第一部では経過報告と規約の提案が行われた。

昨年11月20日に、桐ヶ丘地域振興室で「在京・三宅島噴火被災者連絡会（在京三宅島会）」結成式が行われ、支援ボランティアを含む31名が参加した。

れた。今後は島民の電話帳作成や、交流及び情報交換のために月一回程度の例会を開くことや、例会に出席できない非帰島島民への「ふれあい訪問活動」を、協力者と共に「佐渡おけさ」が行っていく予定だ。しかし、個人情報保護法などの障壁により、まだまだ非帰島島民に関する情報が足りないという現状である。

第2部 懇談会 ボランティアと交流

二部では、島民とボランティアとの懇談会が行われた。机を輪にし、お茶を飲みながら和やかな雰囲気でお互いの生活について意見交換をした。参加した島民は10名で、

都営住宅で一人暮らしをしている高齢者だ。そのうちの一人、都営住宅に一人暮らしをして77歳の女性は、島に帰る予定は未だに立っていないという。島の自宅には10回以上行ったが、屋根が朽ちていて、再び住むのは難しい状態だった。都内に住む息子さんから同居するよう勧められたが、「まだ一人で暮らせるし、近所の人も親切にしてくれる」と、今後も一人暮らしを続けるつもりだという。

在京三宅島会が発足されたことに関しては「たまたま寂しくなることもあるので、三宅島の仲間とのつながりが持てて嬉しい」と話した。

三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒100-1101
東京都三宅島三宅村神着 320-2
Tel. 090-4922-0798
発行人：会長 佐藤就之

事務局便り

- 在京者にお米券と児童に図書券を贈ります。事務局にご連絡下さい。
- 電話帳を作ります。在京者電話帳準備中です。ご希望の方ご連絡下さい。
- ご寄付のお願い！ご協力をお願い致します。事務局にお問い合わせ下さい。

新年会 15日に開催

1月15日（日）に在京三宅島会とふるさと再生ネットワーク合同の新年会が、巣鴨駅地蔵通りとげぬき地蔵尊の並びにある「地蔵そば大橋屋」にて行われます。時間は、午後1時から3時半までを予定しており、島民の方はご招待となっています。

事務局：あすなる保育園内
電話・FAX 03(3963)5697
担当 大坊・吉田

三宅島ふるさと再生ネットワークの佐藤就之会長に新年の抱負と今後の課題について聞いた。島の復旧・復興、帰島を待ちわびる人々、断念する島民の生活不安。いまだ続く火山ガスなど課題は多い。

「三宅島ふるさと再生ネットワーク」 佐藤就之会長

復興のため行政と島民の対話を

「在京三宅島会」のサポートも



明けましておめでとうございます。

全国の皆さまのご支援のなか三宅島に帰島して早いもので一年になります。心より御礼を申し上げます。

本年も引き続きご支援をお願い申し上げます。三宅島ふるさと再生ネットワーク

会長 佐藤就之

私たちは、昨年4月に「三宅島ふるさと再生ネットワーク」を立ち上げた。

この名称に、三宅島の復旧・復興、さらに帰島をしない皆さまにとつては「ふるさと」となる三宅島とともに新たな生活の安定と再生に努力しようとの意味を込めた。島の復旧と復興は、避難生活が長すぎたため

会長のプロフィール

全島避難中の島民組織である「島民連絡会」会長を務め、その後非帰島島民の支援などを目的に「ふるさと再生ネットワーク」を設立し、その会長になる。



島民連絡会会長時代の佐藤さん
(02年8月三宅島島民対話集会で)

生活資財の損壊は想像を越え元には戻らない。再生には新たな視点が必要だ。そのことを行政と島民の対話を通じ考えなくてはならない。

特に、火山ガスのために島の45%が立ち入り禁止などの制限地区。この地域は観光と農業の拠点だ。単なる制限のみでは長期避難のために損壊を被った二の舞となる。全員移転をしないのなら、今から島民の再起の為に機会を多くつくるべく行

政は努力をすべきだ。さらに重要なのは、約千人の人々が2月から帰島をせず内地にいることだ。帰島できない島民、又断念した島民が共通して求めているのは島や行政の情報だ。断念をした人も島に肉親や家屋等の資産を残したまま。固定資産税もこれから徴収される。特に、在京三宅島会のサポート役として努力をして行きたい。

ネットは、非帰島島民の支援、島の復旧・復興の支援をするともに、今も深刻な噴火災害の被災地であることを全国に発信し理解を求めたい。これらの課題を取り組む為に皆様のご理解とご協力をお願いします。

島内外から届いた「頑張れ」の声

御寄付者名

(05年12月8日現在)

(三宅島出身者)

山田木未様、加藤林子様、大石真様、高松梅郎様、井上尚様、須藤幹雄様、田中良雄様、片瀬功様、長谷川芳郎様、島沢秀久様。

(島民)

平松尚志様、佐藤就之様、佐藤宗ノ子様。

(島外)

丸山輝久様(弁護士)、助川俊夫様(学校教師)、横井和之様、吉野文雄様、古館秀也様、藤野輝久様(福祉施設長)、鈴木節子様(福祉施設長)、森田幸江様(学校教師)、高橋栄一様、笹井廣知様、井上教子様、城北中小商工業振興協会様、山岸咲枝様、大坊千代子様、弓寿司様、新開真理様、大島循子様、山崎太郎様 ※「三宅島ふるさと再生ネットワーク」は、皆様のご寄付により活動を行なっております。ありがとうございました。

「協力者」の言葉

(ネットHPから転載)

・帰島せず、こちらで今までの様に生活している方々の住所、電話番号をぜひ知りたいと思います。電話帳の作成をお願いします。(非帰島島民 八王子市・井澤さん)

・よろしく願います。私の他にも世帯が居ますがなかなか会えませんが、他にも心当たりがありますので連絡をとるようになります。(非帰島島民 立川・勝見さん)

・帰島された方、残って転居された方さままでですが、消息を知りたいし、これからの折が有れば皆様とおつきあいでいきたいと願っています。(非帰島島民 北区・平澤さん)

・ふれあい集会に引き続き、お手伝いさせて頂くことになりました。皆様のお役に立てるように頑張りますので宜しくお願い致します。(ネット事務局 大坊千代子さん)



島の若き担い手が寒風の中を走る

第一回中高合同マラソン大会が行われるなど、島に明るい情景が見られるようになった。「七転び八起き」の意気で火山ガスに負けない島民の様子を追った。

子供たち

寒風に負けず

12月17日午前9時から第1回中高合同マラソン大会が開催された。避難前は高校生が島

マラソン大会 村議会 老人クラブなど再始動

元気に走り出した三宅島

を一周するコースで行われ、島民上げての応援があったが、今回は火山ガスの影響で伊豆小グラウンドから伊豆岬線を三周するコースで実施された。現在の生徒数は、小学生67人、中学生37人、高校生36人。4月の開校当時は、小50人、中32人、

高26人（分校除く）。予想より帰

島者が多くなってきたと関係者は話している。

議員報酬など

臨時村議会で決定

第8回臨時議会は11月28日に開会。農地の



修理が決まった特別養護老人ホーム「あじさいの里」

は、扶養手当500円マイナスとなる。いずれも人事院勧告に基づくもの。議員月額報酬は議長25万円、副議長20万円、議員18万円。

神着老人クラブが再開

神着老人クラブは、11月11日に臨時総会を開き役員を改選。新会長に佐藤就之氏が選出され活動を再開した。毎月一日に例会を行う。12月はストレッチの講習、カラオケ、「山古志村のマリと三匹の子犬」の朗読などした。

大妻女子大学 千川剛史教授

「再生ネットの応援団として頑張ります」



私は、多摩ニュータウン地区に避難されていた三宅島の方たちのために、2000年9月下旬

から昨年1月まで、情報紙「アカコッコ」三宅・多摩だより」の編集・発行に携わってまいりました。

また、昨年10月上旬に学生を連れて三宅島にお住まいになつて「アカコッコ」の読者の方たちのご自宅にお伺い

「ネット」の協力者として「在京三宅島会」のお手伝いをしております。現在、この「三宅島新報」の印刷と「ネット」のホームページづくりを担当しております。

5年余にわたり、三宅島のみなさまのお手伝いをさせていただきましたが、今後とも、微力ながらも、お役に立つことができれば幸いと存じます。

いまだ 1000 人が帰れず

「ほしい」島の情報 人のつながり

ネットボランティアが訪問活動



非帰島民の酒井さん宅に訪問しお話を伺う

三宅島の全島避難指示が解除されて11ヵ月が経つ現在も、1000人近くの島民が島に帰らず残っている。原因は、病気や仕事の都合などさまざま。「三宅島ふるさと再生ネットワーク」のボランティアがこのような人たちに対する訪問活動を行っている。その中では、「島の情報がほしい」という声が多く聞かれる。

都が定めた帰島期間が過ぎてからも、島に帰らなかった人は、自分の収入などの条件に合う家賃の住宅等に引っ越したため、友人の連絡先がわからないケースも多い。そんな非帰島民の訪問活動をしている「三宅島ふるさと再生ネット

通院などで帰島を断念

引越して友達の連絡先不明に

ワーク」の伊藤奈穂子さんと同行し、東伏見駅近くの都営住宅に住む酒井一豊さん(62)と山本喜美代さん(65)のお二人に話を伺った。

お二人が帰島しないのは、現在通院しているからだ。酒井さんは避難してから受けた検診で糖尿

インシュリン投与をしなければならぬ状態だ。避難中に島外の奥さんと結婚したことも、帰島しない決意をすることになった。

山本さんはこの6年間で3つの手術を受け、さらに夫も定期的に通院を必要とする状況だ。しかし、山本さんは私たちに笑顔で、「島に帰って民宿を再開し、その庭を大好きな花でいっぱいにすることが今の夢」と話してくれた。

編集後記

ネットは昨年10月20日に協力者会議を開き情報紙・HP作成に協力を求めました。情報紙は向上高校卒業生がつくる「DTPA」の皆様、HPは大妻女子大千川教授のご協力を頂く事が出来ました。厚く御礼を申し上げ創刊号が発行出来た事を喜びとします。(佐藤)

元郵便局長 平松 尚志さん

「感激した会長の訪問」



神着に住まいがあり、現在八王子で生活している平松尚志さんに、現在の心境などについて文章を書いていただいた。平松さんは島では三宅島郵便局長を長いこと勤め、昨年11月まで老人クラブ

の会長をされていた。在京の皆さんには故郷に思いを馳せながら健やかに過ごしの事と存じます。光陰矢の如しと申しますが、あの避難解除の慌ただしさから一年を迎えようとしています。振り返りますと、皆さんの帰島の夢が実を結び、いざ鎌倉というときに、災害復興に携わる事

が出来ない不甲斐無さに苛立ち苦しみ、如何に悩み続けられたか計り知れません。喘息の為に生き甲斐として来た地域ボランティア活動が途絶え、放心状態の真つ只中に、佐藤会長の訪問を頂き、在京の皆さんの不安解消に取り組む情熱に感極まり、老いの身が目覚めた一瞬でもありました。帰れない者同志が連携を深め、情報を収集する為にも会長のご活躍と在京三宅島会の発展をご祈念致します。